

1. この会社が目指す姿が理解できるか

事業面においてはがん、希少遺伝性・血液疾患、ニューロサイエンス(神経精神疾患)、消化器系疾患の4つの疾患領域に重点的に取り組んでおり、ワクチン開発にも注力している。特にこれらの領域で治療選択肢が限られていたり、選択肢自体が存在しないような疾患を持っていたりするような患者さんに革新的な医薬品を届けるように取り組んでいる。また、「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」を彼らの存在意義とし、いかに日々の活動の中で体現していくかを日々追及している。タケダが企業理念として目指す未来は「すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために。」をスローガンとして掲げ、この約束を胸に革新的な医薬品を創出し続けると記されている。タケダの統合報告書ではイントロダクション、ガバナンス体制の説明、上記の3つ(すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために)の詳細がそれぞれ章立てされて説明されており、最後に財務実績という組み立てになっている。75ページある統合報告書のうち30ページ近くをこの会社が理想としている未来に向けてどのような取り組みをしているのかということを図や表などを多用し効果的に示している。最初の部分を読んだだけであるとよくある理想だけを夢物語的に語った抽象的な部分が多かったが、しっかりと後述された部分で具体的な取り組みが多く記載されており有言実行されていたことが分かった。また、前年に掲げた目標を再掲し、それに対してどこまで達成することが出来たかなど進展を記していた点も、目標だけを掲げるのではなく振り返りが出来ていた点から良かった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

医療サービスが行き届いていないような地域や医療制度が発展途上で医療の選択肢がない国など世界各国においてグローバル医薬品の供給を加速させている。また日本でのCOVID-19 ワクチンの安定供給の強化にも努めている。特に売上収益成長は成長製品・新製品が牽引しており、研究開発に力を入れたりデータやデジタル技術の活用による製造スピードの速さだったりというタケダの強みを活かしていることが分かる。しかし統合報告書から読み取れるのは単にタケダ目線からの自社の強みであり、競合他社と比べてどのような数値の違いがあるのかということやタケダにしか出来ないことなどの独自性を読み取ることは出来なかった。タケダがアイルランドの大手製薬会社を買収するなどグローバルカンパニーであるという特性を生かした強みを具体的に提示することでもう少し競争優位性を理解しやすいのではないかと思った。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

中長期的な成長に向けた取り組みとして「成長製品・新製品は、継続的な市場浸透、地理的拡大、患者さんのアクセス改善やライフサイクルマネジメントを通じて、引き続き売上収益の成長を牽引していく見通し」であることや、外部企業とのパートナーシップや事業開発を通じたパイプラインの強化宣言、有利子負債削減の宣言などが記載されている。しかしこれに関する記載に割かれた紙面の量はわずか 1 ページに過ぎず、また競争優位性を持続させるための取り組みの内容は理解することが出来たが、いずれも抽象的な内容であり十分に持続性がある根拠を提示することが出来ているとは言えない。さらにここに書かれている内容はイントロダクションでの CEO メッセージで代表取締役社長が述べていたものとほとんど同内容でありただ言い換えたものというような印象を受けた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「タケダではデータとデジタルを活用した新しい働き方を実現するために、従業員の能力開発に取り組んでいます」と、ともに働く仲間のためという章の中で記されている。この章はいかに現場で働く従業員にとってタケダという職場が働きやすい環境であるかということをお伝えしようとして書かれている。そこで、従業員のスキルアップのために日常業務を自動化するスキル身に着けるための研修やテクノロジーを学習するための学習プログラムを開始するなど様々な取り組みをしていることをうかがえる。また、実際に体験した従業員にアンケートを取り、83%の従業員が仕事を通じて学び、成長が出来ると回答したというデータも併せて載せている。ポテンシャルのある従業員に対しては海外勤務を経験させるといった 5 年間のプログラムに取り入れるなどリーダー育成にも尽力していることも読み取ることが出来る。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

女性従業員の割合やエグゼクティブチームにおける女性の構成比率が一定以上いるということが強調されている。もちろん女性の意見が組み込まれやすいといった点からは重要なことではあるが、単純に能力があるものを採用すればいい話でありそこに性別は関係ないためそのようなデータを強調することで逆に性差が浮き彫りになってしまうのではないかと思った。また、武田薬品工業という会社が目指す理想の未来像そしてそれに向けた取り組みについてはこの統合報告書からはっきりと読み取ることが出来たが、競争優位性などの自社の強みをうまくアピールしきれていないような印象を受けた。財務実績の観点からは実質的な売上収益成長率の上昇に達しており数値上は業績が好調であるためなぜそのような数値を出すことが出来たのかということを書いた方がより良い統合報告書になると思った。